



おも



山新聞

おも

おもおもしんぶん vol.1  
このよのはるがおとずれた



# OmoOmo City

おもおもしんぶん vol.1  
このよのはるがおとずれた

おもおもしんぶん vol.1  
このよのはるがおとずれた

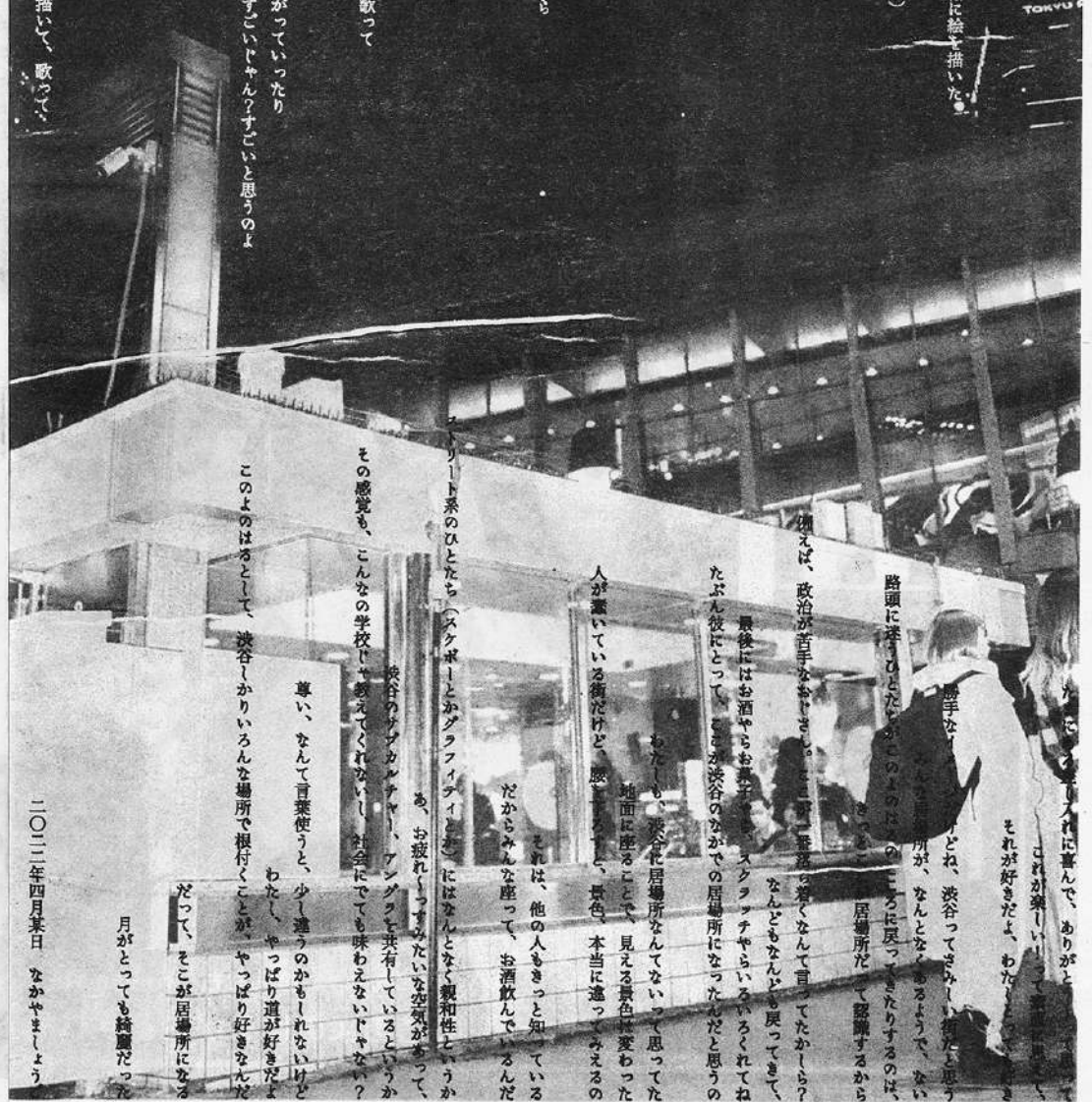
渋谷の街にすわっている  
とつても月が綺麗だった

渋谷の路上は、このよのはるの始まり  
ここで、リサと初めて一緒に演奏をして、初めて一緒に絵を描いた  
初めて儲けたお金でスタバのチャイを飲んだ  
そこで初めてリサのCDを買った（というかもらった）  
たくさんたくさん聴き込んだ  
歌を覚えることなんて普段ぜんぜんしないのだけど、  
リサの曲は頭にささって入ってくるんだ  
わたしは毎日のように口ずさんでいた

思い出、とても好きな思い出  
このよのはるはそこから始まった  
渋谷オーレ似顔絵やさんは、久しぶりのことだった  
そういえば、昔はよくやっていた  
いまは、営業後の感覚といったオサラバしている  
それは金銭的な理由もあるし、体力的な理由もあるから  
夜は自由だ  
夜はアナーキーだ

その時間はとても好きだ  
名前も知らない人たちと出会って、話して、歩いて、歌って  
こんなことは渋谷ならではだと思うんだ  
リサが続けてきたことが、こうやって色々な文化に繋がっていったり  
自分たちの活動になっていたり、なんかそれって、すごいじゃん？すごいと思うのよ  
不思議な気持ちだった  
お財布には二〇〇〇円もない  
縁がないと生きていけない  
そんな感覚だから、暇うって姿勢でいるのだけど  
街に溶けると、遊びに変わるのよね  
難しいことなんか考えなくて、ただただ話して、絵を描いて、歌って、

あ、お疲れ〜っすみたいな空気があって、  
渋谷のナンカルチャ、アングラを共有しているというか  
その感覚も、こんな学校じゃ教えてくれないし、社会にでも味わえないトキはない？  
尊い、なんて言葉使うと、少し違うのかもしいけれど  
わたし、やっぱり道が好きだよ  
わたし、やっぱり好きなんだ  
だって、そこが居場所になる  
月がとっても綺麗だった



二〇二三年四月某日 なかやましろう

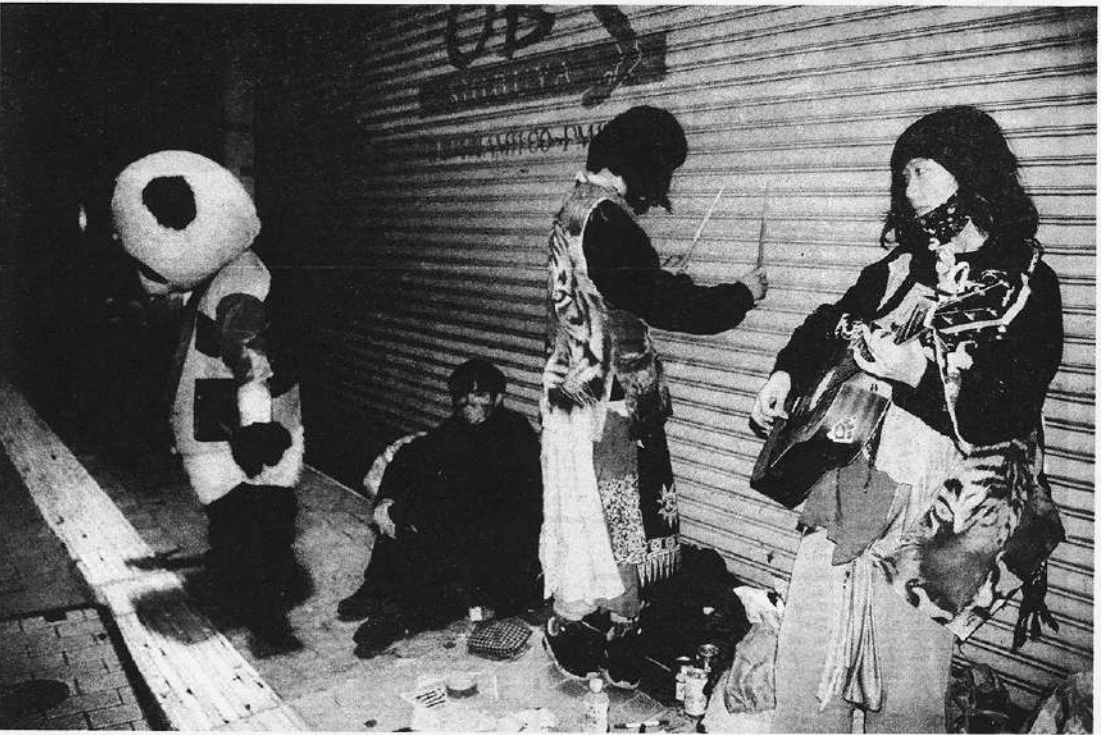


あ、お疲れ〜っすみたいな空気があって、  
渋谷のナンカルチャ、アングラを共有しているというか  
その感覚も、こんな学校じゃ教えてくれないし、社会にでも味わえないトキはない？  
尊い、なんて言葉使うと、少し違うのかもしいけれど  
わたし、やっぱり道が好きだよ  
わたし、やっぱり好きなんだ  
だって、そこが居場所になる  
月がとっても綺麗だった

お店のシャッターの閉まる時間に合わせて  
渋谷にやってくる。今日は久しぶりに朝まで  
路上する気で、温かい服を着て準備万端しよ  
うと音を鳴らして看板を広げて、もっと準  
備万端。かいちちゃんもやって来た。カメラを  
持って全身真っ黒な服を着て、オールナ  
イトする気概を感じられた。このよのはるが  
はじまってから、一、二年は終電後から朝ま  
でを路上の活動時間にしてきた。なぜか言  
うと深夜に出会う人とか街の、野盗で薄っぺ  
らくて温かい雰囲気が好きだったから。夜は  
渋谷にもアジアの風が吹いている。

歌っておどれる似顔絵やさんはじまりはじ  
まり！最初に立ち止まったのはほろ酔いで楽  
しそうな二人組の兄ちゃん、ダイアモンドみ  
たいな宝石がビッシリ入っためっちゃイカつい  
金色の時計をしていたので、「この時計ほし  
い！」と言ったら、上野で五〇〇円で買った  
と笑い続けていた。似顔絵を描いて歌うと、  
地元の熊本で広めろわ〜と言ってとても喜ん  
でくれて、なんだかいい時間が流れ、かいち  
ちゃんに記念に写真を撮ってもらった。あとで交  
換したインスタを見たら出身「OKINAWA  
A」とプロフィールに書いてあった。嘘も本  
当も冗談で流れてどっちでも心地いい気分。

次に立ち止まったのは政治が苦手なおじい  
さん。声をかけたらおじいさんは立ち止まり、  
私たちを見て、「音楽でもなんでも政治に利用  
されちゃうのが嫌なんだ」と元氣よく言っ



いた。路上パフォーマンスや警察によくこのこ  
とをしゃべりに行くらしい。私は「ただ遊ん  
でるだけだよ」と言った。するとおじいさん  
は目の色を変え、「いいね〜」と手をグツッ  
の形に見せ、「一〇〇円をくれた。しばらく  
おじいさんは路上に居続け満足して、「あな  
た達のご多幸をお祈り申し上げます」と深々  
礼をして、何度も振り返っては戻って来そう  
になりながらどこかへ行った。

何人かを描いたころ、数年前に路上で出会  
い下北沢SHELTERの企画ライブにこの  
よのはるを呼んだあんなさんと再会。あの時  
のライブは印象的で、かなりフリーダムに  
やったけれど出演した原マズミさんやそのお  
客さんに受け入れてもらえて、あんなさんの  
企画に色を添えることが出来てとても嬉し  
かった。今はSHELTERでのバイトはし  
ていなくて就職したみたい。前は可愛らしい  
学生だったけどすっかり大人っぽくなってい  
た。その顔を似顔絵に収めた。

しょうこの幼なじみ安藤と、元アイドルグ  
ループのメンバー、パンダが来てくれた。同  
時にポットを持ったお姉さんも立ち止まっ  
た。ポットの彼女はかいちちゃんの知り合いで  
このよのはるの知り合いの知り合いでもあっ  
た。世界は交差するし「ザビーム」。

落ち着いたころ、安藤とパンダの似顔絵を  
描いていたら、政治が苦手なおじいさんが  
戻ってきた。「ここが落ち着く」と言っていた。  
綺麗な別れ方をしたけどすぐ再会するのもし  
いよね。「シラフはいかん」と、おじいさん  
はアルコールやジュース、お菓子を買ってく  
れて楽しくなって来た。パンダとこのよのは  
るは歌って踊ってゆらゆら。

すっかり終電が迫ったころ、かいちちゃん  
で面の制作の時にお手伝いをしてくれたま  
さとがやって来た。「オールするからおいで  
よ」と言っていたけど本当に来てくれた。イギ  
リスにもうすぐ留学する彼にとって、この路  
上ほどどんな思い出になるかしら。

二十四時二十一分 お散歩

〈ミツロッカ〉最初は、しょうこのお  
気に入りのロッカーへ。鍵のかかっているお  
ロッカーにも、毎回何かしらが入っているお  
楽しみBOX。

〈ハウス〉そのあとは、旧このよのはる秘  
密基地前へ。やっぱり七年前に比べてとも  
静かになっていて人も少なく感じる。

〈美竹公園〉この公園は百鬼夜行渋谷アタッ  
ク大作戦というこのよのはるの企画で、毎回  
休んでいるところ。夜の公園は静かで、月の

明かりが目立つ。地図を書き込んで、ちょっ  
とまじめな話をして、伝えることって難しい  
けれど、やっぱり点と点が結びつくように誰  
かと共有できたときは嬉しい。体も冷えてき  
たところでセンター街に行き、路上を再開す  
ることにした。

二十五時四十八分 路上再開

関西弁の男性、ふなごしさんが最初に立ち  
止まり、腰を下ろした。酔っていて、歌を歌  
うと彼は涙を流して感動していた。似顔絵を  
「冷蔵庫に飾るわ」と言っ

茨城から来た男の子二人に「お酒あるんだ  
けどコップない？」としょうこが話しかけた  
ら二人はコップを買いに行くと言って戻っ  
て来る約束をした。渋谷の夜の約束は大体夜に  
溶けていき、なかつたことになる。

私たちの路上を流る重機の道でフリス  
タイルが行われていた。人が地べたに座り困  
み、めっちゃ盛り上がりすぎてチルってる。と思っ  
たら、いつの間にかしょうこもあつち側でフ  
リスタイルを聞きながら、知らない人と肩  
を組んでた。

茨城から来た二人はコップを持って戻って  
きた。本当に帰ってきたことに喜び、道中手  
に入れたワインを分け合ってその場にいた人  
たちと乾杯した。茨城から来たうちの一人は  
将来に悩んでいて、今は、車が小さいころ好  
きたからなんとなく電車の仕事をしてい  
るみたい。

人の流れがいよいよなくなってきたころ、路上  
を切り上げ代々木公園を目指すことにした。



するとその場にいた人達も一緒に行くと言っ  
てみんなで歩き始めた。かいちちゃん、まさ  
と、ふなごしさん、茨城のふたり、このよのはる。  
途中茨城の子が気持ち悪くなって、後から  
代々木公園で合流することになった。けれど  
もちろん口約束で、公園は広くて再会できな  
かった。

二十八時 代々木公園

深夜四時。静かな公園をあちく。エンディ  
ングに向かう感覚。たどり着いた記念に、み  
んなで写真を撮った。そして一人一人、帰っ  
ていった。それぞれの生活に戻る。このよの  
はるは原宿のクレープを食べるため、店が開  
くまで粘ろうとしたがとても寒くて諦めて  
帰った。

ランニングしている人を見ると今日の人だ  
なと思う。オールした人は昨日から残ってい  
る妖怪みたいだよ。妖怪も人間も妖精も入り  
乱れる夜明けを久しぶりに見て、この感じが  
好きだったなと思出した。昔は夜が終わる  
のも寂しい気持ちもあってクレープ屋さんの  
聞く朝十時まで頑張ってたけど、今は体に響  
くからオールは時々にしよ。

# みんなでQ&A

特別  
収録

長崎リサ → ①  
なかやましろうこ → ②  
さとうかい → ③

Q1 「渋谷」ってどんなまち？  
① 居場所  
② ぜんぶの交差点  
③ なんでもあるけど、なにもないところ

Q2 最近、  
どんな夢みた？

① 画面の制作ボランティアを募集したら五〇〇人くらいの学生が集まった。多すぎて焦っているうちに気がついたらステージで手作りの学園祭が開かれて、みんなすきに楽しんでた。学生でこった返す体育館をかき分けて、アウェイかもだけど、もうやるしかない！とステージに走り演奏した夢

② 探してるモノが全然みつからない夢。みつかってもモノ/本体がみえなかった。いやだった  
③ すごく重要な夢をみた気がするんだけど、思い出せない！くやし

Q6 どうしても許せないことは？

① 工夫しないで過当に寝ること  
② よわさ  
③ 賞味期限が切れること

Q3 自分の嫌なところは？

① 気にしすぎるところ  
② スイッチが入ると曲げられないところ、おなかが多いところ、フラッシュバックすることが多いこと  
③ 嫌だなぁと思ったことをなかなか忘れられないこと

Q5 死ぬ場所を  
選べるとしたら？

① お花畑  
② おはなばたけ  
③ 静かなところ

Q4 五月にやりたいこと十個

- ① 一 歯医者に行く
  - 二 おみもの
  - 三 クレープ食べる
  - 四 路上
  - 五 妹に会ってYouTubeの動画を見る
  - 六 百鬼夜行の準備
  - 七 人に会う
  - 八 色々みる
  - 九 さんぽ
  - 十 ファミレス
- ② 一 温泉に行きたい
  - 二 お寿司食べたい
  - 三 お肉食べたい
  - 四 クレープ食べたい
  - 五 じゃぶじゃぶ飲みたい
  - 六 ビクニクク行きたい
  - 七 クライミングしたい
  - 八 ぼーっとしたい
  - 九 全体に行きたい
  - 十 安心して眠りたい
- ③ 一 あたにかい日に海か川に行く
  - 二 大きいお風呂に入る
  - 三 Softbank air を解約する
  - 四 誕生日を盛大にお祝いする
  - 五 家を綺麗にする
  - 六 大切なことをちゃんと大切に
  - 七 たくさんお酒を飲む
  - 八 映画を観る
  - 九 ゆっくりご飯を食べる
  - 十 花を愛でる

## おもおも編集後記

「おもおも」は、「面白くない」ほとんど面倒くさいよね「おもおも」をコンセプトに路上を活動の舞台とする若いアーティストやクリエイターをドキュメント・発信していきたいながら、「面白くない」をともに分かち合っていくプロジェクト。今回の新聞では、渋谷の路上で活動するうたつおとれる似顔絵ユニット「このよのはる」に密着した記念すべき活動第一弾を特集しています。

「このよのはる」は、自分たちの活動について話すときに「妖怪」という言葉をよく使う。まさに棲みつく妖怪。夜になると姿をあらわす妖怪。ぐちゃぐちゃした人の流れを抜けて、妖怪の歌に吸い込まれていく人たち。路上で出会う見ず知らずの人々の言葉は、嘘か本当かで行ったら割とほとんどが嘘で、お互いを何も知らないままに時間を過ごし、去っていく。でも不思議と、そこでは濃ゆい交流が行われている気がする。居心地がよくなって道の真ん中に座り込んだりうらや何回も戻ってきちゃう人なんかもいて、名刺交換なんかよりずっとその人の中の何かを交換して、生き物同士で繋がっている感覚がある。なんだかやさしい空気が流れている。そんな姿を見てると、年齢も性別も肩書きも、知らないうちに背負わされていた社会的な情報なんか、本当は何一つ私たち自身をあらわして欲しくないのだと一言に改めて気付かされる。いかにも「社会人」みたいなふりをしているだけで私たちはみんな、人の皮を被った妖怪なのかもしれない。人の皮を脱いで、何者でもない妖怪ままだに出会い、別れる。その舞台としての渋谷。人も流行もいろんなものが爆発して過ぎていく渋谷のまちは歩くたびクラクラしてしまうけど、今回の密着を通して、目まぐるしさのすみっこにあるあたたかさや人のチャームポイントを見つければ、このまちが少し好きになれたような気がする。「このよのはる」が、ずっと元気でいてくれるといいな。リサさんしろうこさん、ありがとうございました。(さとうかい)



おもおもしんぶんVOL.1  
発行日 二〇一三年四月二十六日  
編集 さとうかい(チームおもおも)  
執筆 なかやましろうこ、長崎リサ(このよのはる)  
発行人 さとうかい(チームおもおも)